

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	太良町立大浦小学校		
2 所在地	太良町大字大浦丁 348 番地		
3 校長名	中尾 昇 八		
4 学級数 児童生徒数	11 学級 255 人	5 実施学年 児童生徒数	4 年～6 年 140 人
6 取組のねらい			
第4学年			
<ul style="list-style-type: none"> 車いすやアイマスク等を使って、障害者や高齢者の疑似体験や補助体験を行うことで、「福祉」について関心を持ち、思いやりの心を持つことの大切さを実感する。 			
第5学年			
<ul style="list-style-type: none"> UDについて関心を持ち、UDとは何かを理解し、みんなで協力し合い、住みやすい社会をつくっていかうとする心情を育てる。 			
第6学年			
<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域にある、UDのことを意欲的に調べ、それをもとに自分なりのUDを考えることができる。 			
7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）			
(1) 第4学年の取組			
<p>12月7日（火）介護老人保健施設「ふるさとの森」から社会福祉士の方を招聘し、高齢者疑似体験と車椅子体験を行った。</p> <p>まず、社会福祉士の方から「高齢者」や「車椅子」についての説明があり、その後、高齢者疑似体験用のプロテクターを着用して、校舎内外において歩行等の体験をしたり、車椅子を使って介助の体験をしたりした。</p> <p>子ども達は、この体験学習を通して、高齢者や障害者の方々の生活の大変さや気持ちを理解するとともに、福祉についての関心が大いに高まった。</p>			
			
			
【児童の一部感想】			
<ul style="list-style-type: none"> お年よりの人がどれだけきついか、分かりました。お年よりになって、身体が不自由になってしまったら、手を貸してもらえたらいいなと思いました。 体験をして、お年よりはどのようにしてあげればいいのか、分かりました。今度私もお年よりに声をかけてみようかな。 			

(2) 第5・6学年の取組

ア UD出前講座

12月3日（金）佐賀県庁地域福祉課の職員の方を招聘し、UD出前講座を実施した。講座では、UDについての基本的な考え方や具体例の紹介、そして、UDの目指すこれからの社会などについて、写真やイラストを使って分かりやすく説明があった。子ども達の感想からは、この講座に参加して「UDのことがよく分かった」「UDのことをもっと調べてみたい」など、これからのUD学習に向けて意欲的に取り組もうとする姿勢が見られた。



ユニバーサルデザインのお話を聞いて

6年2組 名前(今日 董)

◆今日のUD出前講座を聞いて、あなたはどのようなことを学び、感じましたか。または、思いましたか。感想を書きましょう。

今回のUDの出前講座で、ユニバーサルデザインについて少し分かりました。なにげなく使っている三先くち機や、リフト、リンスが、いろんな人に使いやすくているのを知りました。他にも、いろんなところで、利用されていて、自動販売機は初めて、見て知りました。目の届かないところでも、どんどんUD化が進んでいてびっくりしました。子供から、障害者をもふくめ、高齢者まで、毎日が楽しくなってます。特に、障害者や、けが人、高齢者は、暮らしやすくなって、みんなと同じようになるといいだろうと思います。(しかし、みんなの「思いも」つかなかった、ユニバーサルデザインがあっても、意味が無いかもしれないことなど、あらゆる人のことを考えて、できる1人の暮らしが楽しくなるように、みんなが楽しんで行けたらいいと思います。今日の寺崎先生の話を、いろんなことがありました。これからの学習が楽しみです。

イ UD調べ学習

UD出前講座の後、インターネットを使ってUD調べ学習を行い、UDについての知識や理解をさらに深めることにした。

子ども達は、UD出前講座での話を聞いて「UDの作品をもっと知りたい」「UDの開発はいつから始まったのか」「佐賀県や太良町にはどんなUDがあるのか」など、たくさんのことを学びたいという気持ちが高まっており、意欲的に調べ学習に取り組んだ。



ウ UD施設現地見学

12月17日（金）太良町総合福祉保健センター「しおさい館」を訪問して、館内及び周辺のUD施設を子ども達自らが探索していく学習活動を企画実施した。

まず、子ども達は館内の研修室にて当センター職員によるオリエンテーションに

参加し、今日の学習の流れについて確認した後、各グループに分かれて館内及び周辺にあるUD施設やバリアフリー施設を探索して回った。子ども達は、グループ内で話し合いながら、UDの視点に合った施設を意欲的に見つけていた。

その後、子ども達は研修室に集まり、センター職員から館内並びに館周辺に存在するUD施設やバリアフリー施設について説明を受けた。自分たちが見つけたことができたUD等の施設がどれだけあったかなど、スライドを交えながらクイズ形式で説明がなされ、子ども達も関心を持って熱心にその説明に耳を傾けていた。なかでも、館内及び周辺のUD等の施設の中に、改善が必要な施設もあることに気づき、その改善点を話し合う内容もあったことは、子ども達にとって改めてUDについて考えさせられるよい機会となった。



2010.12.17.金

UD施設探検「しおさい館等巡り」

大浦小 6年2組 名前(野中魁)

◆今日のUD施設巡りや中村さんのお話を聞いて、わかったこと、発見したことを箇条書きで書きましょう。

①しおさい館にお年寄りの人のことを考えたり子供にも両方使いやすいUDがたくさんあった

②しおさい館には全部で多くの種類のユニバーサルデザインがあつたことが分かった。でもUDをつくっていても必要じゃないとか不十分なところがあるところが分かった。

③しおさい館が一番多くあつたのは手すりだつた。

④どうな人も平等に使えるUDを開発している人が笑顔で暮らせる町にすることが大切だと分かった

◆今日のUDの学習を終えて、あなたが感じたこと、思ったことなど、感想を書きましょう。

しおさい館を見学はじめて最初思ったことはすてきなところがあったこと。トイレや浴室などにも中村さんの手すりがあったのでびっくりしました。結構しおさい館はバリアフリーがたくさんあることが分かりました。そして、おじちゃんおばあちゃん子供などがみんな平等に使えるようにしていただくといいなと思いました。その他にもろうすを点くしたり手洗うところなどを触かいたり、高字ブロックや点字などがありとても楽しかったです。でもUDにも不十分なところがあることも分かりました。スライドドアはともかくエレベーターが入らないところや坂が急なところや、UDにも不十分なところがあることが思い勉強になりました。これからどうな人も平等に使えるUDを開発している人が笑顔で暮らせる町にしたいと思いました。僕もユニバーサルデザインのような心を持った人間になりたいです。

エ UD作品の制作、並びに成果発表

12月の総合的な学習の時間を使って、UDについて様々な学習活動を企画実施してきた。その間、子ども達のUDへの関心も高まり、UDについて多くの知識を得るとともに、UDが目指す心豊かな社会についても深く考えていくことができた。

そこで、これまでのUD学習のまとめとして、佐賀県こどもUD作品コンクールに参加することにした。作品は3部門（アイディア作品の部、ポスター・壁新聞の

部、作文の部)あり、どの部門で出品するかは、子ども達自身に選択させ、冬季休業中を利用して作品制作に取り組ませた。子ども達は、これまでUDについて学習してきた成果と、これからの社会に対する思いなどを一生懸命に表現しようと制作活動に意欲的に取り組んだ。

また、1月28日(金)太良町青少年育成町民大会において、UDについての学習成果を発表する機会を与えられ、6年生の深井さんが代表して「思いやりを大切にしたいUD」という題で、町民に向けてUDの大切さを訴えかけた。



8 取組の成果と課題

- 体験活動を組み入れることで、UDの考え方をより理解し、思いやりを持って周りの人の気持ちを考えようとする児童が増えてきた。
- 身近にあるUDの施設等を調べることで、だれにでもやさしい町づくりに関心を持つ児童が増えた。
- UDの学習成果を日常の学校生活に生かし発展させていくような継続的・計画的な指導が必要になってくると考える。